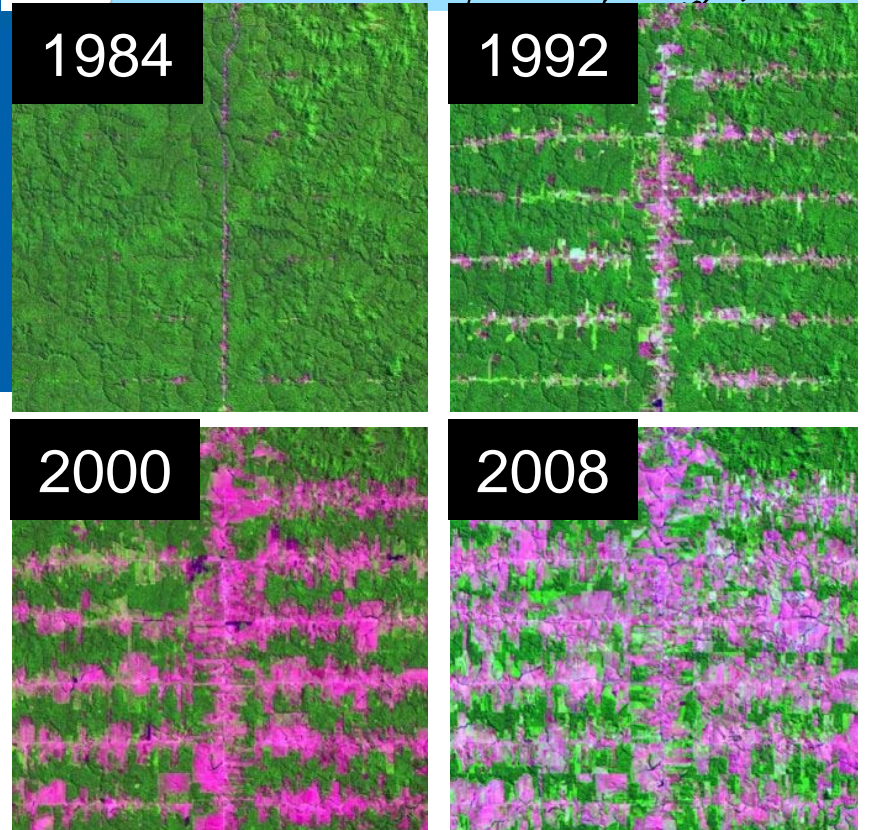


SATREPS公開セミナー
アマゾンの森林における炭素動態広域評価
•場所: 東京大学生産技術研究所(駒場)
コンベンションホール (An棟2階)



平成24年10月17日 水曜日 13:30~17:00

基調講演 空からのアマゾンの監視システム
Deforestation Monitoring from Space
Dr. Yosio Shimabukuro [国立宇宙研究所INPE]

- アマゾンの森林における炭素動態の広域評価プロジェクト(CADAF)の概要
石塚森吉((独)森林総合研究所 研究コーディネータ)
- アマゾンにおける炭素動態評価のための森林調査
諏訪鍊平((独)森林総合研究所 特任研究員)
- 最近の森林リモートセンシング技術 Recent remote sensing technology for forest monitoring,
Dr. Egidio Arai (INPE, Brazil、研究員)
- リモートセンシングによる自然環境の自動監視システム
澤田義人(東大生研、特任研究員)
- アマゾンの森林炭素推定にかかわる情報処理技術
沢田治雄(東大生研、教授)

お申し込みは、事務局(吉村: yyoko@iis.u-tokyo.ac.jp)まで、氏名と連絡先をお知らせください。
なお、講演は英語と日本語で行われます。

主催: 東京大学生産技術研究所(独)森林総合研究所(独)国際協力機構(独)科学技術振興機構(予定)

公開セミナー アマゾンの森をはかる

SATREPS「アマゾンの森林における炭素動態の広域評価(CADAF)」プロジェクト中間報告

平成24年10月17日(水)13:30~17:00

東京大学生産技術研究所 コンベンションホール (An棟2階)

開催趣旨

アマゾンの森林は現存する熱帯雨林の半分以上の面積を有し、純生産量が全世界の陸域生態系の約10%にも達することから、地球規模の影響を及ぼす地域となっています。しかし、1960年代以降急速に森林減少が進み、とくに2000~05年の間に一段と減少したことや度重なる干ばつとそれに伴う林野火災のため、地球規模の炭素循環や水循環に深刻な影響を及ぼすことが危惧されています。このような発展途上国における森林の減少・劣化に由来する二酸化炭素排出の削減等(REDDプラス)が、気候変動対策の次期枠組みにおける重要な課題として検討が進められていますが、その実現には、広域の森林を対象にした炭素蓄積量とその変化の評価技術が必要となっています。そこで、森林総合研究所、東京大学生産技術研究所、ブラジル国立アマゾン研究所、同宇宙研究所は、地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS)^{注)}のもとで、国際共同研究プロジェクト「アマゾンの森林における炭素動態の広域評価(2010~2014)(略称CADAF)」を立ち上げました。このプロジェクトは1,000プロット以上の森林インベントリ調査に基づいて、詳細な森林情報を収集するとともに、航空機と人工衛星の様々なリモートセンシング技術を利用してスケールアップし、アマゾン全域の森林炭素蓄積量を求める世界でも類を見ない試みに挑戦しているものです。本セミナーは、このアマゾンの森林炭素動態研究の最前線をご紹介します、今後の地球規模の森林問題における調査・協力の可能性について議論を深めることを目的としています。

注) 国際協力機構(JICA)と科学技術振興機構(JST)が連携して推進する事業

12:30	受付開始
13:30	開会 主催者挨拶
13:45	基調講演 空からのアマゾンの監視 ヨジオ・シマブクロ(ブラジル国立宇宙研究所)
14:30	講演 炭素動態広域評価プロジェクトCADAFの概要 石塚森吉(森林総合研究所 研究コーディネータ) アマゾンにおける炭素動態評価のための森林調査 諏訪鍊平(森林総合研究所 研究員)
15:15	休憩
15:30	ブラジルにおける最近の森林リモートセンシング技術 エジディオ・アライ(ブラジル国立宇宙研究所) リモートセンシングによる自然環境の自動監視システム 澤田義人(東京大学生産技術研究所 研究員) アマゾンの森林炭素推定にかかわる情報処理技術 沢田治雄(東京大学生産技術研究所 教授)
17:00	閉会